

緑の相談所だより

{ 10.11月号 ~1991.9.30~ 発行・編集 旭川市緑の相談所 }

いずれの講習会も一般市民の参加をお待ちしております。

参加料=無料・定員・60名

お申し込み・お問い合わせは、緑の相談所(神楽岡公園)

☎65~5553

講習

会

会

多肉植物を楽しもう!

日時 10月13日(日) 午後1~3時

講師 本郷 仁 北海道愛別高等学校教諭



観葉植物、鉢花、冬越しのコツ

日時 10月27日(日) 午後1~3時

講師 村田 正一 緑の相談所相談員

洋ラン教室 冬の管理

日時 11月10日(日) 午後1~3時

講師 笠原 幸三 旭川洋ラン会常任幹事



シクラメンと冬に向けての鉢花管理

日時 11月24日(日) 午後1~3時

講師 萩原 和夫 旭川農業高校教諭



季節の花ことば



りんどう わたしはあなたが悲しんでいるとき、あなたをもっと愛する。

碧紫色の、星の形をした花の咲くリンドウですが、その根には強い苦味があり、まるで竜の胆のようだということから「龍胆」(りんどう)という名がつけました。

花ことばは、根の苦味からという説もありますが、やはり紫という色からの連想ではないでしょうか。

これから寒さが強くなるので、
体が暖まる果実酒を紹介します。

ニンニクの酒

愛称
アリ-ルジュン

原料

ニンニク=約400g
レモン=4個
白ごま=約60g
ハチミツ=カップ1杯
ホワイトリカー35度
=1.8ℓ

作り方

ニンニクのかたまりをほぐし、表皮をとりさりご飯の蒸し器で蒸す（やわらかくなりすぎないように）。これを冷却してから原酒に入れる。レモンは皮をむき実の部分だけを輪切りにして入れる。白ごまは、煎ってつぶして入れる。月桂樹の葉の乾燥したのを20枚ぐらい、それから青ジソの半乾きの葉茎を30~40枚入れるのもよい。

薬効力

風邪、結核性虚弱体質
胃腸障害、冷え性、外傷
不眠症、精神安定剤

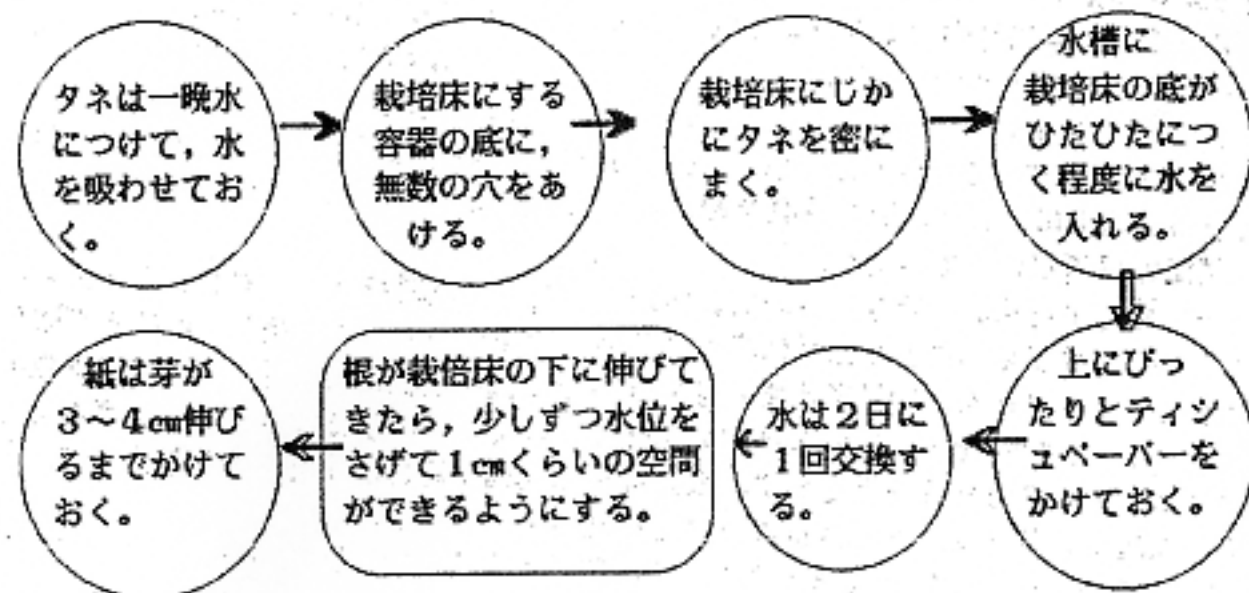
臭みはなく1ヵ月で飲める。レモンは3ヵ月でひきあげごまは1年くらいそのまま。成分が強いから多くてウイスキーグラスに3杯程度。子供にはお湯で薄め、ハチミツを入れて与えるとよい。

冬に楽しむ サラダ野菜の水耕栽培

簡単に用意できて、簡単につくれる野菜を楽しみながらつくってみませんか？

カイワレダイコントレイ栽培

用意するもの アルミ皿などの底が平らなもの、栽培床とぴったり合う容器（小さいボールなど、水槽として下に組み合わせる）。



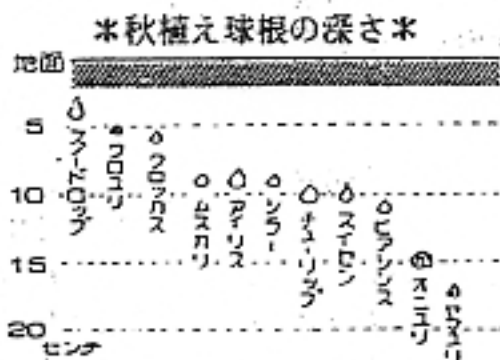
収穫 双葉が開いたら、根元から切り取ります。

秋植え球根の植えつけ

10月いっぱい秋植え球根の植えつけ時期です。園芸店にはいろいろな球根が出ていますから、好きなものを選んで求めるといいでしょう。

植えるとき同じものをまとめて植えると見えます。

秋植え球根の種類と植えつけの深さは図を参考にして下さい。球根の間隔は直径の3～5倍くらいです。



※チューリップは毎年、外は2～3年おきに植え直すとよい。

肥料 = 1㎡当たり、ピートモスなどの土壌改良剤10ℓ、鶏糞両手に一杯、草木灰湯飲み茶碗に1～2杯を土によく混ぜておきます。または、燐酸、カリ分を多く含んだ化成肥料だけでもいいでしょう。ユリの場合は球根の下よりも上に多く混ぜます。球根の上にてた茎から多くの根を出すからです。

低温に耐える鉢花の管理

アザレヤ = 霜には直接当てないように霜よけの下で低温に合わせます。つぼみを低温に合わせないで暖かい室内に入れると、休眠から覚めないで花がうまく咲きません。凍るようになったら玄関か廊下などの温度の低い所に置きます。十分低温に合わせてから少し暖かい所に移すといいでしょう。つぼみが色づいたら乾ききらないように水をたっぷり与えます。

ツバキ = 10月中旬くらいまでは外で良く、土が凍っても自然に溶かします。温度の高い室内ではつぼみが落ちるので、10度～15度くらいの所で霧水をたびたびかけてやります。水は乾き過ぎないうちに与え、薄い水肥も10日に一度やりましょう。

クンシラン = 秋のうちに10度～15度くらいの低温に1月以上合わせておきましょう。低温に合わせないと花茎が伸びないで咲いてしまうことがあります。室内でもやや低温の場所がいいでしょう。

若い株でまだ花をつけないものは、暖かい所で水も肥料を与えて株を肥らせます。

ウメ = 鉢植えのウメを正月に咲かせて楽しみたいものです。暖かい所にすぐ取り込むとうまく咲きません。12月半ばまではできるだけ低い温度の所に置いて寒さの刺激を与えておきます。咲かせたい日の半月前に10度～15度くらいの所に移し、毎日、霧水を何回か木全体にかけて湿り気を与えます。水は鉢土の表面が乾きかけたら十分与えます。居間のような暖かい所ではうまくいかないの注意してください。

クジャクサボテン = 花を着けるような大株は水やりをうんと減らして下さい。12月、1月、2月は水を与えません。そして凍らない程度の寒い場所(2度～5度)で夜は暗くして置くと節々に花芽が出来ます。居間のような暖かい所で水も与えていると花芽は出来にくいものです。

◎シクラメン、プリムラ、アザレヤなどは20度以下の日当たりのいい所が機嫌よく花を咲かせます。

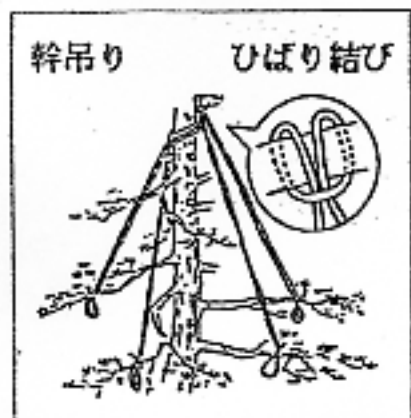
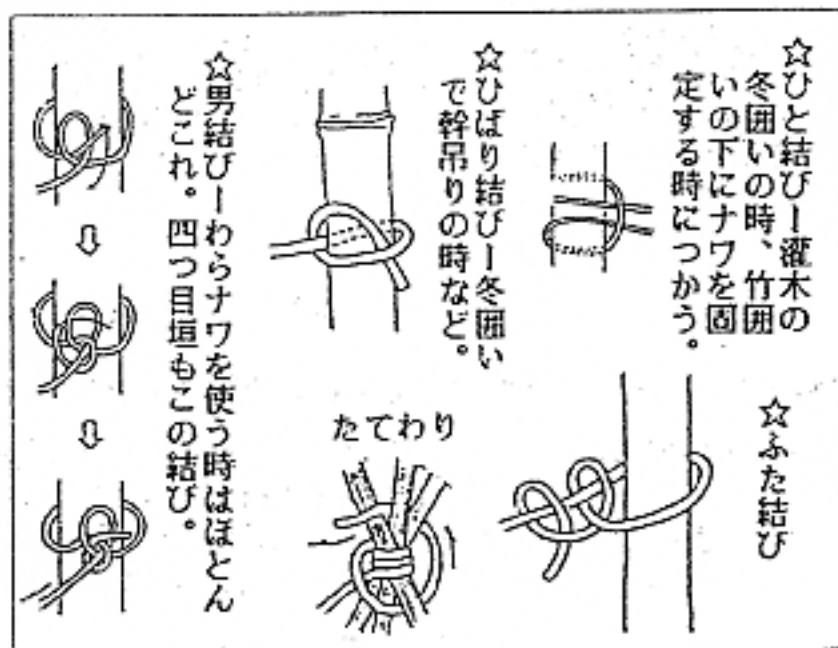
庭木類の冬囲いは冬期間の雪害、あるいは寒さの害から守るための手段ですので時期、方法など樹種にあった囲い方をすることが大切です。

冬囲いの時期

冬囲いは霜が降り始め落葉広葉樹、灌木類が落葉してから囲うのが良い。温度が2桁台の時期、あるいはツツジ類にまだ葉がついている様な時期での冬囲いはさけることが大切です。

冬囲いに必要な結び方

結び方はいろいろありますが、一般的なものとして上図の通りです。

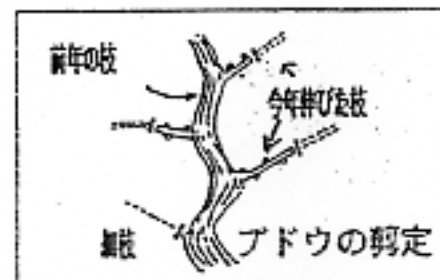


冬囲いの方法

冬囲いはきまった方法というものはありませんが、雪による被害、寒さによる被害等から庭木類をまもることが出来れば良いこととなりますので、囲う目的を決め、それにあった方法で囲うことが大切です。囲い方の一例をあげると次の通りです。

大、中径木 カバ類、サクラ（サクランボも含む）コブシ、モクレンなどの様な落葉広葉樹類は冬囲いの必要はありませんが、苗木のうちには灌木類に準じた囲い方をするのが良い。イチイ、マツ類などは雪の被害から守ることが大切です。

灌木類 ツツジ、シャクナゲ類（洋シャクのうちで-10度以下に耐えられないものは除く）は巻き上げ程度の冬囲いで良く、サツキあるいは耐寒性種以外の洋シャク類は庭に穴を掘って越冬させるか、内ムロで越冬させるのが良い。



フジ、ブドウ フジ、ブドウについては冬囲いではなく、剪定の時期になりますので11月に入ってから3~5芽を残した剪定をします。

ブドウは冬期間枯れ込みが入りますので、1~2芽ぐらい余裕をもって切る様にします。